

Chuo Vision 2025

世界に存在感のある大学を目指して

2021年度

学校法人中央大学事業計画

学校法人中央大学

目次

I	はじめに.....	1
II	中長期事業計画「CHUO VISION 2025」.....	2
1	Mission.....	2
2	Vision.....	2
III	2021年度 重点政策.....	5
IV	事業計画.....	5
	重点事業計画.....	5
1	教育研究組織の改編・創設.....	5
2	キャンパス整備.....	6
3	グローバル戦略.....	7
4	学際的研究拠点の形成.....	8
5	入試政策.....	8
6	スポーツ振興.....	9
7	総合学園.....	9
	基本計画.....	10
1	教育力.....	10
2	研究力.....	11
3	社会貢献力.....	11
4	広報・ブランド力.....	12
	経営財政計画.....	13
1	経営・運営政策.....	13
2	財務政策.....	13
3	施設・設備管理.....	14
	【参考】 中長期事業計画 指標・目標設定.....	14

I はじめに

中央大学は、2015年10月に「Chuo Vision 2025」（中央大学中長期事業計画）を策定し、当該計画の下において各種事業の推進に努めてまいりました。

国際経営学部、国際情報学部の設置や法学部をはじめとした教育研究組織のキャンパス移転事業等、各種施策をすすめるなかで、各計画の進捗や本学を取り巻く環境に生じた変化を踏まえ、2021年度から2025年度（5年間）を第2期として必要な見直しを行いました。

第2期計画では、2025年のあるべき姿を目指して定めたMission、Visionは堅持しつつ、新型コロナウイルス感染症対策により急速に進んだオンライン授業に対する環境整備や危機管理体制の強化等、今般の社会情勢の変化等を反映しております。

「2021年度学校法人中央大学事業計画」の策定に際しては、「Chuo Vision 2025」を土台としつつ、教育、研究、社会貢献を加速させるためにデジタルを活用した構造改革に着手してまいります。

Society5.0の社会において新たな価値を創出する人材を育成し、これからの高等教育機関としての役割を果たすため、AI・データサイエンス教育を全学的に展開するのも、その一環です。

多摩キャンパスでは、世界基準の教育研究活動拠点に相応しい次世代型キャンパス・デザインを構想し、2020年4月の「グローバル館」、「国際教育寮」開設に続き、2021年4月には教育研究の新棟「FOREST GATEWAY CHUO」がオープンします。ここでは、10年間にわたり蓄積してきた教育力向上推進事業の成果を踏まえて、新時代に相応しい教育を開発し実践致します。

また、都心キャンパスでは、早期に法曹資格を取得できる新しい法曹養成制度をリードし、リカレント教育を発展させるために、法学部・大学院法学研究科・法科大学院・専門職大学院の連携を強化し、茗荷谷キャンパス（仮称）と駿河台キャンパス（仮称）とに新棟を建設して、構想の実現を図ります。

中央大学教職員は、Chuo Vision 2025 第2期に向けて、教育・研究・社会貢献に取り組んでまいります。

Ⅱ 中長期事業計画「Chuo Vision 2025」

学校法人中央大学は、創立 130 周年にあたる 2015 年にその後の 10 年間を見すえた中長期事業計画「Chuo Vision 2025」を策定しました。「Chuo Vision 2025」における Mission（使命）、Vision（将来構想）は以下のとおりです。

1 Mission

グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成

2 Vision

(1) 教育

社会の期待に応え、人類の福祉に貢献する力を備えた人材を育成するための総合的な実学教育の拠点の形成

学修を支援するきめ細かな体制を構築するとともに、実学をリードする教育改革を推進し、学生・生徒が未来を展望しながら主体的に学ぶことを促す。総合学園としての全体力を集中し、実学教育をとおした論理的思考や課題解決能力を兼ね備えた人材を育成すること、また専門分野が細分化・高度化される中で、既存の教育組織の見直し、統廃合を行うとともに新たな枠組みを構築し、専門分野や専門関連分野の知識修得を促すための体系的なカリキュラム、並びに学部・大学院を通じた専門教育の確立を行う。

(2) 研究

地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する専門的かつ学際的な研究拠点の形成

教育を支える力となる研究の基盤整備に努めるとともに、人類社会に貢献する研究の一層の高度化を促進する。既存の伝統的学問分野と新たな学際的な学問分野が融合し、総合大学として相応しい研究分野を備えており、そこでの多様な研究成果が、教育活動並びに社会貢献・国際連携と連動し、本学のトータルなブランド力の向上に寄与するようにする。

(3) 社会貢献

特色ある教育研究に立脚した社会連携とヒューマンネットワーク拠点の形成

地域社会・国際社会との多様な交流を通じて社会的連携の強化に努め、学術、文化、スポーツ、ボランティア等の各分野で社会貢献・国際連携の責務を果たす。また、中央大学の組織たる中学校、高等学校、大学、その他の組織との連携を強化し、魅力ある総合学園づくり、幅広いステークホルダーからの支持を受けられる学園づくりを行い、「中大ファン」の獲得と次代への継承を行う。

(4) キャンパス

人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築

文化・景観・環境・アメニティを重視し、その適正配置のもと、学生・生徒が躍動する、魅力あふれる総合キャンパスを創出、展開する。また、キャンパスそのもののグローバル化を追求し、多摩と都心の特色ある二大拠点の形成を実現する。本学の将来構想並びに学園づくりの中心の一つに常にキャンパス展開を位置づけ、その特色について広く社会へ情報発信を行い、大学の「見える化」を実現していく。

(5) 経営

本学の継続的な事業活動を支える揺るぎない経営基盤の確立

本学の財政構造上の問題点の一つである、学生生徒等納付金に依存した収入構造を見直し、手数料収入、寄付金収入、資産運用収入、事業収入そして外部資金の獲得について、それぞれの主体となる予算単位が目標収入数値を策定し、実績検証を行う仕組みを確立する。とりわけ競争的資金を含む補助金の獲得は、大学間競争の重要な指標であり、ガバナンスの充実強化、教育研究組織の改革、再編等によってその大幅な増加を実現し、本学の経営力の向上に資するようにする。

中央大学中長期事業計画 Chuo Vision 2025 【概要】

2021年3月

1. 建学の精神

「實地應用ノ素ヲ養フ」

全学の歡智を結集して伝統を絶えず更新・革新し、高度かつグローバルな実践者として実地応用の力を備え、社会の改革の担い手となる人材を養成する

3. 社会動向の変化

- ✓ Society 5.0: 情報化時代を先導する人材育成が急務
- ✓ AI等の先進技術の発展と産業構造の変化
- ✓ 文理融合、学際機断型人材育成と教育研究
- ✓ コロナ禍で更に加速するDX(デジタルトランスフォーメーション)
- ✓ SDGsに基づくグローバル規模での多様な活動の展開
- ✓ 18歳人口漸減とコロナ禍での大学の序列変動
- ✓ 人生100年時代：学びの形態の多様化

2. 2025年に目指すべき姿

自らの改革を主体的、継続的に実行し、学校法人中央大学の構成員一人ひとりが、教育・研究・社会貢献・国際連携、文化・スポーツ活動等に取り組み、躍動感あふれ、ダイナミックな事業を展開する大学をつくりあげる。変化する大学の姿を絶えず発信し、卒業生を高い幅広い層の「中大ファン」を獲得し、次代に向けたさらなる発展の原動力とする

4. 優先的に取り組むべき課題

- 学問分野の多様性確保と求むる明確化
 - 学部・研究科の改編・創設、移転事業の着実な遂行
- 新型コロナウイルス感染症と大学の機能・維持強化
 - ICT技術活用、教育の高度化、学修者の視点に立った支援、外的要因の変化に依らず安心・安全な活動ができる環境整備
- 2025年以降を見据えた実施基盤の強化
 - 学生視点での教育研究支援のための組織再編、事業計画遂行のための財務基盤の確立と予算制度・運用見直し

5. 推進体制



6. Mission, Vision と具体的な取り組み

Vision 教育

社会の期待に応え、人類の福祉に貢献する力を備えた人材を育成するための総合的な実学教育の拠点の形成

研究

地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する専門的かつ学際的な研究の拠点の形成

社会貢献

特色ある教育研究に立脚した社会連携とコミュニティネットワークの形成

キャンパス

人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築

経営

本学の継続的な事業活動を支える揺るぎない経営基盤の確立

- 既存学部改編・新学部等の創設による新しい分野への教育研究の展開
- 法学部移転を機とした、全学的な教育体制の構築
- 大学院改革の推進
- 教育の質保証、教学マネジメント充実
- 学修支援体制の強化と整備

- 戦略的かつ学際的な研究推進体制の構築 (コアコアゲイブ→AI認知多様性)
- 研究環境の再構築
- 研究パフォーマンス向上
- 研究所の活動の可視化
- 学術情報基盤としての図書館の検討

- SDGs宣言に基づく組織的取組
- ダイバーシティ推進
- 教育研究、スポーツ振興、グローバル戦略、総合学園等の各計画と連携した社会連携活動の推進
- 情報公開と積極的な広報活動

- 新キャンパス開校 (茗荷谷) に向けた整備
- 既存キャンパスの再整備 (駿河台建替、後楽園、多摩)
- 教育研究の展開に連動した次世代キャンパスデザイン構想の検討

- 抜本的な組織の改編と見直し
- 新たな人事政策の策定
- 学校法人一体として総合的視点に基づく学校経営の検討と実施
- ガバナンス強化と教学マネジメント充実
- 諸活動を発展させるための財務基盤の確立

重点事業計画 (成長戦略、最重要課題)

基本計画 (恒常的・長期的実行)

入試政策

グローバル戦略

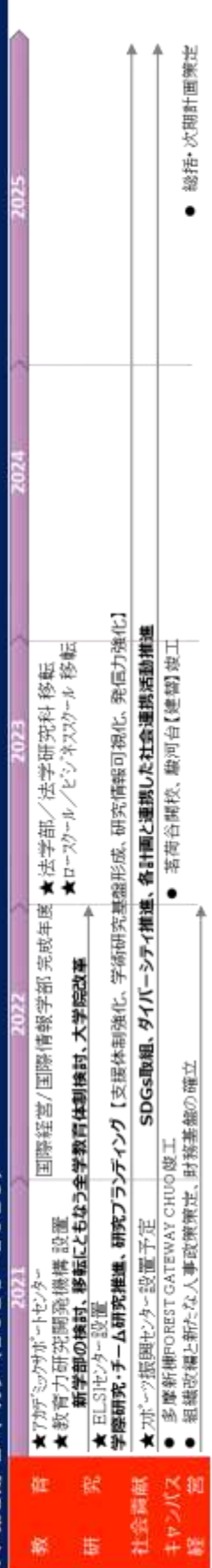
スポーツ振興

総合学園

キャンパス整備

財務政策

7. 第2期ロードマップ (2021~2025)



● 総括・次期計画策定

Ⅲ 2021年度 重点政策

2021年度において、とくに具体的な成果を挙げるべき重点政策は以下のとおりです。

2023年度に控えた法学部移転を契機として進展する各事業を実現していくために、全事業（特に教育・研究・社会貢献・経営）におけるデジタルトランスフォーメーションおよび構造改革に着手する。

Ⅳ 事業計画

重点事業計画

中長期事業計画が対象とする2025年度までの期間のうち、本学の成長戦略として2021年度に取り組むべき事業計画は、以下のとおりです。

1 教育研究組織の改編・創設



(1) 学部・学科の創設・再編による教育研究力の充実・強化

○学びと研鑽を求める人々に、より多くの選択肢を提供できるよう、学部・大学院研究科における教育研究組織の再編・新設に関する検討を進め、学問の多様性を目指します。

(2) 多摩・都心の二大キャンパス整備に併せた全学的教育開発・支援体制の構築

○中央大学教育力研究開発機構を設置し、DX化推進を含む本学の教育力向上のための研究開発を推進します。

○Society5.0の社会において新たな価値を創出する人材を育成し、これからの高等教育機関としての役割を果たすため、文理を問わず全学部生を対象として、AI・データサイエンス分野をリテラシーから応用基礎レベルまで系統的に学修する「AI・データサイエンス全学プログラム」を2021年4月より開始します。

(3) 社会と連携し現代と将来で存在感を増す教育研究基盤の形成

○ELSIセンターを設置し、科学技術の進歩に伴い、その技術を社会実装する際に発生す

る ELSI (Ethical, Legal and Social Implications) 的課題に対応する研究活動を推進します。

- AI・データサイエンスセンターを中心として、産業界等との AI およびデータサイエンスを活用した共同研究、AI およびデータサイエンス領域でのリカレント教育を含む研究・社会貢献事業を実施します。

(4) 大学院改革の推進に向けた教育研究基盤の形成

- 本学大学院が追求すべき機能や教育研究の強み、これに基づく研究科や専攻の改編・新設、定員政策、組織基盤の見直しや大学院生の支援のあり方について基本構想を検討します。

2 キャンパス整備



(1) ダイバーシティに富むグローバルキャンパスとしての多摩キャンパスの整備

- 在学生のラーニング・交流拠点、地域との交流拠点として新棟—FOREST GATEWAY CHUO を 2021 年 4 月に開設します。多摩キャンパスの未来像は「豊かな自然環境のナチュラルなイメージとダイバーシティに富むグローバルキャンパス」としています。『FOREST GATEWAY CHUO』は、豊かな自然に調和する内外観が特徴で、多摩産材を積極的に活用し、SDGs に即した環境配慮型教育施設として整備しました。

- **国土交通省の補助金を積極活用**

- ① **サステナブル建築物等先導事業 (木造先導型)**

学び・交流の場は温かみのある空間とするため、吹抜け空間に面して、積極的に木を構造材として用い、木と鉄骨のハイブリット構造で構築。

- ② **サステナブル建築物等先導事業 (省 CO₂先導型)**

学生がさまざまなアクティビティを展開する空間が、“立体広場”と大階段を中心に立体的に計画。これらの空間では、見える化と合わせて学生に居場所の選択や衣服の調整などの省 CO₂ 行動を促す運用が計画されている。

(2) プロフェッショナルキャンパスとしての都心キャンパスの整備

- 多摩キャンパスの建物改築時期を見越した教育研究の展開を検討します。
- 国際情報学部 (市ヶ谷田町) の展開を検討します。
- 周辺 (J T 跡地等) を含めた後楽園キャンパスの整備を進めます。
- 2023 年 4 月供用開始に向けた茗荷谷キャンパス (仮称)、駿河台キャンパス (仮称) の整備を進めます。

3 グローバル戦略



新型コロナウイルス感染症対策による出入国の制限は、留学生の受入れ、派遣をはじめとしたグローバルな活動に大きな影響を与えています。このような制限下においても、「オンライン」の利点を活かしながら学生一人ひとりのニーズに合わせた留学準備や受入れのための環境を整備します。コロナ禍で学生の活動の場が国内にあっても、グローバル素養を身につけることができる支援と体制整備を行います。

(1) 教育研究の国際化

- グローバル人材育成の柱として外国語力向上及び海外留学を促進するために実施している外国語講座について、オンラインを活用するなど運営方法を改善します。
- 国際教育寮での体験を通じて主体的な学びを得られるように、寮生を対象とした研修を実施するなど環境づくりを推進します。
- 本学の伝統である実学教育を通じて修得した専門知識・技能をグローバル社会で発揮することができる「グローバル・プロフェッショナル」の育成を目指し、すべての科目を外国語で教える全学的教育プログラム「グローバル FLP プログラム」について、「Global LEAP」との統合初年度となることから、安定的なプログラム運営を実施します。

(2) 学生の海外派遣

- 渡航できない状況下で留学希望者のニーズに応えるために、国内における英語研修、オンライン留学などの体制を整備します。

(3) 留学生の受入れ

- 奨学金制度の見直しおよび学外奨学金の利用促進に取り組めます。

(4) 教職員の国際化

- 英語による授業実施スキル向上のためのFD研修会を実施します。

(5) 総合学園としてのグローバル教育の接続・外部との連携

- 国際センターにより実施・運営する各種外国語強化講座に附属の中学校・高等学校の生徒が参加できる環境を整備します。
- 本大学のグローバル展開及び多様な学生の受入れを推進するため、日本国外において後期中等教育を行う学校のうち、本学の教育目標と調和する教育目標を有し、当該教育目標に従ったカリキュラムに基づく教育の実践について本大学との連携協力を希望する学校を対象として「国際連携校」とし、教育連携、研究教育交流、学生間交流等の連携を行います。

4 学際的研究拠点の形成



(1) 分野融合、学際的な課題解決型研究チームの連続的構築のための研究支援体制の整備

- 「コグニティブダイバーシティ」学際融合コンソーシアムの構築を目指した研究チーム、学内における研究者の「場」の形成を通じての研究チームづくりや、研究マッピングにより得られた本学に特徴的研究テーマに基づく「チーム型」「学際融合型」チーム形成のため、研究クラスター形成を支援する制度を活用し、研究推進専門職である URA によるコーディネートを行います。
- 後楽園キャンパスに ELSI センターを設置し、科学技術の進歩に伴い、その技術を社会実装する際に発生する ELSI (Ethical, Legal and Social Implications) 的課題に対応する研究活動を推進します。(再掲)

(2) 研究財源の確保・充実

- 研究推進専門職である URA のコーディネートにより、特徴的研究テーマに基づく「チーム型」「学際融合型」チーム形成を形成し、外部資金獲得額増加策を展開します。
- 研究財源の多様化および戦略的な活用をはかります。

(3) 情報収集と可視化、情報発信の強化

- 戦略的研究プロモーションを可能にする研究広報プラットフォーム (WEB サイト) を再構築します。
- 研究 IR に向けた研究関連情報 (学術リポジトリ、シーズ情報) を整備します。

5 入試政策



(1) 中央大学らしい入試制度 (入学者選抜制度) の構築

- 本学のグローバル化、総合学園化の一層の充実をはかる視点を含め、新たな入学試験制度の整備にむけた検討をします。
- 厳正な入学試験実施を支える体制を整備します。

(2) 入試広報活動の強化

- 受験生、保護者へ本学の魅力を的確に発信するためのコンテンツを見直し、広報を強化します。

6 スポーツ振興



(1) 大学スポーツ振興の方針の確立

- 大学全体としてのスポーツ振興の観点から、スポーツ憲章（仮称）を策定します。
- 大学スポーツ協会（UNIVAS）の各種取組みと連携し、学修支援、安心安全管理に関わる事項の順守、事業マーケティングの連携によるブランド戦略の活用を推進します。
- スポーツを通じた社会貢献として、東京オリンピック・パラリンピック大学連携協定書に基づく連携協力を実施します。

(2) 選手・部会強化策によるスポーツ振興のさらなる充実

- 選手・部会強化策へ継続的に取組みます。
- スポーツ振興のための資金獲得を推進します。

(3) 全学横断的な推進体制の整備と環境整備

- 大学全体としてのスポーツ振興の観点から、全学横断的な推進体制としてスポーツ振興センター（仮称）を整備します。
- スポーツ施設の検証を踏まえ、トレーニング施設および南平寮の整備について検討します。

7 総合学園



(1) 本学の全教育研究機関の連携による建学の精神を体現する生徒・学生の育成

- 大学と附属の高等学校・中学校との共通講座、個別講座を体系的に構築する教育連携プログラムを作成し、段階的に実施します。
- 国際センターにより実施・運営する各種外国語強化講座に附属の中学校・高等学校の生徒が参加できる環境を整備します。（再掲）
- 本大学のグローバル展開及び多様な学生の受入れを推進するため、日本国外において後期中等教育を行う学校のうち、本学の教育目標と調和する教育目標を有し、当該教育目標に従ったカリキュラムに基づく教育の実践について本大学との連携協力を希望する学校を対象として「国際連携校」とし、教育連携、研究教育交流、学生間交流等の連携を行います。（再掲）

基本計画

本学の理念・目的を達成するために必要な課題及び恒常的に改善を図らなければならない課題に関する 2021 年度の事業計画は、以下のとおりです。

1 教育力



(1) 学部教育課程の充実と発展

- DX を活用するべく、機器設備の整備を行い、学生教職員の協働で授業コンテンツを開発・高度化するとともに、それらを普及させるための研修等の活動を継続的に実施して、教場での面接授業とオンラインによる遠隔授業をシームレスに結合するハイブリッド型授業を実現します。
- 多摩キャンパスにアカデミックサポートセンターを設置し、学術・学問分野に関する汎用的な基礎能力の涵養を目指します。
- 学部学生のアカデミック・ライティング技能の向上をはかるため、2021 年度から「アカデミック・ライティング」科目を開設します。
- 各学部・研究科において学修成果の可視化を推進します。
- 「オンライン授業の質保証・更なる教育の質向上」、「新たな教育手法の検討」をテーマとしたFD活動を実施します。
- 2020 年度から開始した法学部、法務研究科の連携による一貫教育プログラムについて、司法試験合格に繋がる質保証が十分に実現できる仕組みとするべく、引き続き諸制度設計や教育内容を検討します。
- 教育力向上推進事業を実施し、その成果を全学的に共有することにより各組織における教育の活性化に努めます。

(2) 大学院教育の充実と発展

- 本学大学院が追求すべき機能や教育研究の強み、これに基づく研究科や専攻の改編・新設、定員政策、組織基盤の見直しや大学院生の支援のあり方について基本構想を検討します。(再掲)
- 法務研究科、戦略経営研究科において、志願者の維持・拡大、専門職業人育成の強化に取り組めます。

(3) 学生支援、学修経験時間の充実

- 学生が新しい生活様式に対応した活動を展開できるよう、オンライン等を活用し、修学・学生生活、資格取得、ボランティア活動などの社会貢献活動、キャリア・就職支援、

スポーツ・文化芸術活動等における支援を実施します。

- 資格取得支援として、合格者の数的増加のみならず、その資質向上も目指し、きめ細やかな学修支援を実施します。

2 研究力



(1) 研究支援

- 科学研究費獲得のためのセミナー開催、申請に関する支援を引き続き実施します。
- 研究リスクマネジメントのための更なる基盤整備として、全学的な研究マネジメント体制の構築、研究コンプライアンス遵守のための啓発を推進します。
- 研究推進・支援体制の強化として、ベンチャー企業支援策、支援体制を確立します。

(2) 研究パフォーマンスの向上

- 事務作業削減に向けた研究費執行ルールを改善します。
- 研究推進専門職（URA）の増員により研究推進・支援体制を強化します。
- 海外の大学、研究機関との研究連携を進める国際的な研究チーム形成を支援します。
- 研究活動の可視化に向けて研究指標を検討します。

(3) キャンパスの二大拠点化に最適な学術情報基盤の構築

- 2023年度に控える法学部等の移転に向けて、迅速な蔵書提供を可能とするために、保存書庫の整備、高速デリバリーサービス体制の構築を推進します。
- 中央図書館の利用者環境を整備します。

3 社会貢献力



(1) 社会貢献活動の推進および情報発信の強化

- 「中央大学の社会連携と社会貢献に関する理念」に基づき、本学における社会貢献・社会連携活動を再確認するとともに、戦略的な活動の推進に向けた評価指標を検討します。
- 大学の使命としての社会貢献活動について、本学の取組み、活動状況について公式WEBを通じて広く周知します。

(2) SDGs への対応

○「中央大学 SDGs 宣言」に基づく取組みに関する情報発信を引き続き推進します。

(3) ダイバーシティ推進

○「中央大学ダイバーシティ宣言」を周知し、アンケートの実施により本学におけるダイバーシティの実態を把握の上、支援活動、環境改善活動を推進します。

4 広報・ブランドカ



(1) ブランディングの明確化・強化

○Chuo Vision 2025 の諸施策を通じて、さらに高まる本学全体の魅力・価値を考察・整理し、本学構成員（教職員・在学生・生徒）に共有・浸透をはかることにより、ブランディングを強化します。

(2) インターナル（学内）コミュニケーションの強化

○広報発信力強化に向けて、「広報ハンドブック」をリニューアルのうえ教職員に周知し、各組織における広報発信の意識向上を図り、各組織と広報室との連携を強化します。

(3) 情報発信力の強化

○プレスリリース、メディア向けニュースレターを活用し、併せて公式 WEB サイト（日本語版、英語版）リニューアルプロジェクトを通して、よりわかりやすく、本学の魅力を発信できる情報環境を強化します。

経営財政計画

事業計画の実行を支える財務、ガバナンス・マネジメントに関する 2021 年度の事業計画は、以下のとおりです。

1 経営・運営政策



(1) 事業計画の推進

○中長期事業計画を推進するために定性的進捗と定量的進捗（指標・目標）を定期的に確認し、これらをもとに実施状況を検証のうえ、学内に情報共有を図り、事業計画を推進します。

(2) 新たな人事政策の策定

○専任職員の能力発揮、能力向上に向けて職員人事制度の改正を検討中です。

(3) 大学ガバナンスの強化と教学マネジメントの充実

○改正私立学校法を踏まえ、DX の活用により学校法人のガバナンスの強化に努めるとともに、大学運営においては、教学マネジメントの強化と充実に引き続き取り組みます。

2 財務政策



(1) 中長期事業計画の実施に係る財政計画

○中長期事業計画の進捗に応じて財政シミュレーションに基づく検討を行い、計画遂行を支える施策を講じます。

(2) 入学定員の確保

○事業活動収入の多くが学生生徒等納付金である実態を踏まえ、学生数の確保は財政上極めて重要な事項と認識し、適切な学生数を確保します。

(3) 外部資金の獲得

○補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金の獲得に努めます。

○寄付金については、「白門飛躍募金」として募金活動を実施しており、中長期事業計画を財政的に支援する「Chuo Vision 2025 募金」、大学の経常活動（被災学生支援、部活

動支援などへの使途指定寄付、寄付講座など)を支える「中央大学サポーターズ募金」により構成しています。引き続き、本学が実施する事業の目的、取組みの説明、寄付者への報告を充実させ、新規寄付者を開拓し、寄付金収入増に取り組めます。

3 施設・設備管理



(1) キャンパスの維持・管理

- 大学教育における DX 基盤整備に伴い、施設・設備を整備します。
- with コロナ post コロナ時代を見据えた環境整備を推進します (with コロナ: 第1体育館各道場への空調設備工事)。
- ハイブリッド授業対応設備の整備 (2020 年度から継続) および情報環境基盤の強化を推進します。
- 2021 年春に竣工した FOREST GATEWAY CHUO では、CO₂ 排出削減や太陽光エネルギーの有効利用を目指した様々な工夫が施されており、こうしたアイデアを参考に全学で環境に配慮したエコキャンパス整備を進めます。

【参考】 中長期事業計画 指標・目標設定

中長期事業計画「Chuo Vision 2025」において定めた指標・目標設定は以下のとおりです。

(1) 「全学共通指標」

2025 年度末での到達イメージを定量的に表し、大学の規模・基礎力を示す。2038 年以降の大規模施設改修を見据えた財務基盤の確立が重要な柱となるため、2025 年度までに実施していく教育研究組織の改編や、法学部等の移転に伴う収容定員政策等の施策の結果として定量的に想定される目標値を設定した。

(2) 「チェックポイント指標」

全学共通指標を達成するための直接的な要因となる指標。今回新たに、大学院の施策を定量的に測る指標や、ブランド力を総合的に図る指標を追加した。

(3) 「活動指標」

チェックポイント指標を達成するための要因や内訳の構成要素であり、各組織の活動やアクションプランと密接に関連する指標。中長期事業計画の指標管理システム「Chuo Vision Report」で提示し、目標値は各組織で定める。

学生の入学 (input)		教育、研究の提供内容 (contents)		社会とのつながり (学生、大学) (output)		input~contents~outputを支える実施基盤	
学生募集		大学の規模・基礎力、教育、研究		社会貢献、ブランド向上、情報発信		経営、財政、人事	
項目	2025目標	項目	2025目標	項目	2025目標	項目	2025目標
1 学部数	(10以上)	2 全学収容定員	(30,084)	4 学生満足度	(90%)	5 事業活動収入	(500億円)
6 学科数	(28以上)	3 全学生数	(30000以上)	41 卒業時アンケートの肯定的回答割合			
7 学部入学試験志願者数	(90,000)	10 専任教員数	(735-780)	31 就職率	(98.5%)	39 寄付金収入	(単年度10億円)
8 学部入学試験実志願者数	(40,000)	11 学部_収容定員	(27,524)	32 司法試験 累積合格率	(75.0%)	40 人件費比率	(50%)
9 一般入試志願者数(オメガ)	(5位)	12 大学院_収容定員	(1800以上)	33 司法試験 合格者数(順位)	(1位)	41 人件費依存率	(70%)
		13 専門職(院)_収容定員	(760)	34 公認会計士 合格者数(順位)	(1位)	42 事業活動収支差額比率	(10%)
		14 学部学生数	(27,524)	35 国家公務員総合職合格者数(順位)	(1位)	43 前受金保有率	(100%以上)
		15 大学院学生数	(1260以上)	36 利・ノ・リ代表選手人数	(20人以上)	44 行政職教員の女性比率	(20%)
		16 専門職(院)学生数	(532)	37 箱根駅伝順位	(優勝)	45 事務組織数	(76)
		17 学部女子学生比率	(45%)	38 大学ブランドランキング	(68)	46 専任職員数	(400)
		18 学部_充足率	(100%)	首都圏にシナジーゾーン対象		47 専任職員女性比率	(45%)
		19 大学院_充足率	(金研究科70%以上)			48 職員管理職の割合	(20%)
		20 専門職(院)_充足率	(金研究科70%以上)			49 職員管理職の女性比率	(33%)
		21 学位の分野数	(6以上)			50 累計_寄付金収入	(100億円)
		22 外国人留学生数	(1,000)			2016-2025	
		23 海外留学生数	(2,200)				
		24 外国語による授業科目数割合	(20%)				
		25 学外研究費受入額	(18億1010万円)				
		26 科研費採択額	(7億460万円)				
		27 科研費採択件数	(271)				
		28 専任外国人等教員率	(25%)				
		29 専任外国人教員比率	(10%)				
		30 専任女性教員比率(大学)	(25%)				

① 高みを目指して努力する指標

② チェックポイント指標